

公益社団法人 伊奈町シルバー人材センター

令和5年度事業報告

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

令和5年度は、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5月8日から、季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行しました。

法律に基づいた外出自粛の要請はなくなり、感染対策は個人の判断に委ねられ、幅広い医療機関で受診ができるようになるなど、3年余り続いた国のコロナ対策は大きな節目を迎えました。

ロシアによるウクライナ侵攻や円安の影響もあり、2023年通年の全国消費者物価指数（生鮮食品を除く）は、前年に比べ3.1%上昇の105.2と1982年以来41年振りの上昇幅となり、私たちの生活に影響を与えたほか、年明け早々に発生した能登半島での大規模災害においては甚大な被害に驚き、大変心を痛めることとなりました。

一方、将棋界では藤井聡太棋士が史上初となる八大タイトル独占を達成し、海外ではアメリカ大リーグでプレーする大谷翔平選手が、日本人選手で初めてとなるアメリカンリーグのホームラン王のタイトルを獲得、さらに、シーズンで最も活躍した選手に贈られる MVP = 最優秀選手に選ばれるなど、若い世代の活躍という明るいニュースが駆け巡った年でもありました。

このような状況の中、当センターは、「自主・自立、共働・共助」の理念の下、就業を希望する高齢者に就業機会を提供するとともに、地域社会への参加活動の推進や健康で生きがいのある生活の実現に寄与し、会員の皆様が健康で安全に就業できるよう各種の事業に取り組んだほか、会員増強のための普及啓発活動や就業機会の確保・拡大並びに安全・適正就業の推進等に努めてまいりました。

令和5年度末の会員数は336名で、前年度と比較して5名の増となりました。期間中、「1人一声加入運動」を実施し、さらに「会員拡大キャンペーン」として入会金の半額やポイント増量などの特典を付与したほか、女性向け入会説明会の開催や「広報いな」に有料広告を掲載するなど、例年以上に会員増強に取り組んだ結果が表れたものと考えております。

事業実績につきましては、受注件数で前年度比5.4%増の1,712件、契約金額では、前年度比1.4%増の約1億7,000万円となる一方で、就業延人員は前年度比8.7%減の40,582人とどまりました。

内訳としては、請負の受注件数が79件増加し、1,635件（前年度比較：5.1%増）、契約金額は1,800万円減少し、約1億850万円（前年度比較：

14. 2%減) となりました。

派遣事業においては、受注件数、契約金額ともに前年度を上回りました。受注件数は8件増加し77件(前年度比較: 11.6%増)、契約金額は2,035万円増加し、約6,100万円(前年度比較: 50.0%増)となりました。これは、請負就業から派遣就業への切り替えを進めたことによるものと考えております。

以下、主な事業についてご報告いたします。

1 会員の増強と就業開拓提供事業

- 1) 会員の増強と就業機会拡大を図るため、昨年10月1日から本年3月31日までの間、会員全員で「1人一声加入運動」を展開するとともに、町内回覧等の実施に伴う相乗効果に加え、10月から3月までの6か月間、「会員拡大キャンペーン」として当センター独自で入会金の半額や会員ポイントの増量などを実施し、期間中27名の加入申し込みをいただきました。
- 2) 今後更に増加が見込まれる「福祉・家事援助サービス事業」分野などの女性会員の増強を図るため、女性向け入会説明会を3回開催し、5名の加入申し込みをいただきました。女性入会説明会においては、女性役員・女性職員が対応し入会対象者に配慮した説明会を実施しました。
- 3) 町内事業所及び一般家庭に向け、センター事業の理解と派遣を含めた就業機会の拡大を図るため、公共施設・金融機関等への啓発チラシの配置をお願いいたしました。
- 4) 会員の知識と経験とをマッチングさせ就業機会の拡大を図れるよう推進し、請負の契約受注件数は1,635件(対前年79件増)、派遣事業では契約受注件数77件(対前年8件増)となっています。
就業率は、請負では84.2%、派遣を含めると96.1%の実績を上げることができました。

2 普及啓発活動事業

- 1) 公共施設・金融機関等へのチラシの配置依頼や町全区への回覧を1回、センター広報紙「シルバーいな」を2回発行、町広報紙でのPRを3回（有料広告掲載を含む）行うなど、普及啓発活動を展開しました。
また、ホームページを活用し、普及啓発に努めました。
- 2) 「会員拡大キャンペーン」として当センター独自で入会金の半額（令和5年10月～令和6年3月までの6か月間）を実施し、入会の促進を図りました。
（キャンペーンチラシを町全区で回覧。）
- 3) 社会奉仕活動として、伊奈まつり会場及び当センター周辺での清掃ボランティア活動を2回実施し、センター事業の普及啓発活動に努めました。（参加者 延べ96名）
- 4) 町と締結した「伊奈町見守りオレンジネットワーク事業協定」（令和3年2月1日締結）により、協力事業者の一員として、認知症や孤立等で支援が必要な方の発見や日常生活における異変の早期発見、早期対応のため、地域の見守り活動を実施しました。

3 研修・講習事業

- 1) 会員の就業に必要な知識・技能の向上のため、機械除草班による刈払機取り扱いについての安全就業研修を実施しました。
- 2) その他、派遣事業やフレイル予防等、役員及び職員の研修事業に参加しました。

4 介護予防・日常生活支援総合事業

- 1) 町と当センターが相互に連携・協力し、「介護予防・日常生活支援総合事業」の「訪問型サービス」を実施し、生活支援サービスの提供をしています。

5 相談事業

- 1) 町内在住の高齢者に対して就業機会の提供を図るよう、毎月第3水曜日開催の入会説明会の他、女性を対象とした入会説明会を3回開催しました。
(入会説明会出席者43名 内男性24名、女性19名)
- 2) 入会説明会には役員も同席し、シルバーの概要説明等を実施しています。また、会員間の就業上の相談を受け就業改善に努めました。

6 安全・適性就業推進事業

- 1) 「安全第一」・「事故ゼロ」を目指して、安全・適正就業委員会委員等3名による就業現場への「安全パトロール」を原則毎月1回行うよう計画し、年間で11回、延64か所を巡回実施しました。
これにより、就業現場の安全環境の再確認、安全就業意識の向上が図られました。
- 2) 会員の安全就業に必要な知識・技能の向上のため、機械除草班による刈払機取り扱いについての安全就業研修を実施しました。
就業における重篤事故は幸い無いものの、例年になく事故が多発しました。事故等の発生状況は、傷害事故8件、物損事故16件、合わせて24件（対前年14件増）となっております。
- 3) 「会員必携安全就業ハンドブック」を配付活用し安全就業の徹底を図りました。
- 4) 前年度に引き続き、会員の就業時間及び就業期間の配分を考え、会員の能力に応じて公平に働く機会が得られるよう運営を図っていくことを検討したものの、会員数の増加を図ることが出来なかったこと、また、会員の高年齢化等から安定したローテーションプランを策定することは難しく、引き続き今後の課題の一つと考えられます。